



地震火災を防ぐための知識と準備

地震が発生すると、同時に多くの場所で火災が発生するおそれがあります。地震による火災を防ぐためには、まず各家庭から出火させないことが重要です。地震火災に備えて、日ごろからわが家が火元にならないための対策を取っておきましょう。

住宅用火災警報器 (住警器) の設置 全ての住宅で設置が義務です

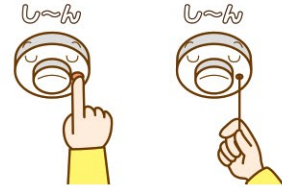
住宅には住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器は交換目安の10年を過ぎると電子部品や電池が寿命を迎え、正常に作動しない場合があるので、定期的に確認しましょう。異常がある場合、電池の接続不良や電池切れ、機器本体の故障が考えられるので、状況に応じて交換しましょう。

ボタンを押すか、紐をきましょう。

正常な場合



異常がある場合



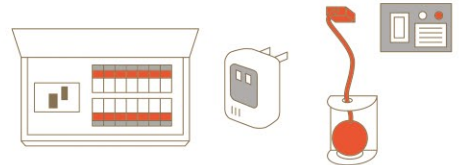
住宅用消火器を設置しましょう。

ご家庭には、「住宅用消火器」を設置しましょう。住宅用消火器には、使用期限が表示されています。期限が過ぎたものは、新しいものと交換しましょう。住宅用消火器は、ホームセンター、防災用品店、インターネット等で購入することができます。悪質な消火器の訪問販売・点検にはご注意ください。



感震ブレーカーを設置しましょう。

一定以上の揺れを感知すると、自動的に電気を止める機器です。自分で取り付け可能なタイプもあります。一斉に電気が止まるので、避難用の照明や生命に直結する医療機器の非常用電源の確保など、停電対策もあわせて取り組みましょう。



時間差が怖い「通電火災」

地震や台風などの災害による停電が復旧して、再び通電することで発生する火災を「通電火災」といいます。復旧が災害から数日後になることもあり、怖いのはその時間差で発見・消火が遅れることです。避難して無人となった家から出火するケースも少なくありません。

通電火災を防ぐためのポイント

- 避難するときは、家を出る前にブレーカーを落とします。
- ブレーカーを戻す前に、電気機器や配線・コードに破損はないかなど、よく確認します。



火元別の消火方法を覚えましょう。

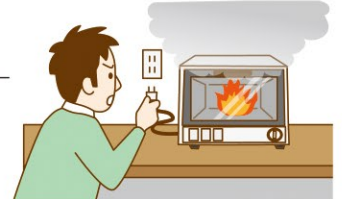
コンロ

- 油が入った鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は直接火に向けて噴射します。
- 消火器がない場合は、シーツなどを濡らして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断します。



電気器具

コンセントを抜くかブレーカーを切り、消火器で消火します。



ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射します。
- 消火器がない場合は、シーツなどを濡らして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断します。



着衣

着衣に火がついたら「ストップ、ドロップ&ロール」(止まって、倒れて、転がって)。走り回らずその場に止まり、地面に倒れ込み左右に転がって消火します。

